

校長室だより



文責:清水重光

令和5年度が本日からスタートいたします。新たに20名の新入生の皆さんを迎えて、全校130名のスタートとなります。昨年度末に6年生27名が卒業し、寂しい気持ちでいましたが、元気な1年先生が入学してくれてくれたお陰でとても華やかになったなど実感しています。また、教職員も何人か異動があり、新進気鋭の先生方が新たに岸野小学校の仲間入りをしました。新入生と同じように始めは戸惑うことも多いと思いますが、一緒に岸野小学校の子ども達のために力を尽くして参りたいと思います。ご理解をいただき、ご支援くださいますようお願いいたします。

さて年度の初めということもあり、本年度の岸野小学校で特に大事にしていきたいと思うことやお子さんにつけていきたい力をお伝えしたいと思います。

1 本年度の本校の重点目標は

「岸野の良さを実感し、友や保護者、地域の方々と一緒に、心身共に豊かな生活を自ら創り出していく児童の育成 ～多様性を認め合い、自律した子どもを育てる～」

この重点については、昨年度時間をかけて教職員で考え合い、児童の実態や地域の願いなどから考え出したものです。

岸野地区の皆様が教育に対してとても大切に考えられてきた経緯を踏まえ、多くの保護者の皆様、地域の方々に支えられ、また、期待され、そして支援していただいている現状を子ども達と共に感じながら、感謝の気持ちを持って日々の生活を送ってほしいこと、また、保護者の皆様や地域の方々と一緒によりよい社会の形成者として自覚をし、関わり合って地域を作っていく気持ちを育てていくこと、誰もが特別な存在として、お互いの良さを知り、違いを認め合い、多様性を受け入れていくこと、それぞれの児童がそれぞれに自分を律し、生活の自律、気持ちの自律、人間関係の自律、学びの自律に向けて、日々学校での生活を送れることを願い考えました。

2 どんな学びをしていくのか、また、私たち教師が行うこと

① 私たち人間にとって一番大切なことは、コミュニケーションをとっていくことです。

そのために、言語理解力を大切にしていきます。言葉の正確な理解なしにコミュニケーションを取っていくことはできません。読んだことから、主述の関係が理解できる、係り受けや指示語の指す中身、文章から推論する力、言葉から正確なイメージを持つ力あるいはイメージしたものを言葉にする力等、言葉を使って人は思考を広げていきます。十分な言葉の理解なしに、思考し、判断し、適切に話すことはできませんし、また、十分な理解がないまま、言葉を聴き、思考し、判断しても大きな誤解や勘違いを生むこととなります。まずは言語理解の力をつけることが大切になります。

また、言語理解の力を駆使し、他者と会話をし、相談し、話し合い、意見を交換し合って、より新たな考え方をそれぞれに作っていくことが必要になります。理解して終わりではありません。授業の中でも話し合い活動を行うことに重きを置かれるようになってきている背景には、私たちを取り巻く様々な環境（自然、経済、社会）がこれまで以上に大きく変化していることに起因しています。今までの常識では通用しないことがこれからますます起こってくるのが考えられます。誰とでも、いつでも、どんな形でも、よりよい解決の方法を考え合い、試し、修正し、更に考え合うということが必要

になります。そうした一番の基本なるのが他者とのコミュニケーション能力です。学校生活の中で他者と係わることを通して、つけいきたい力です。

② 多様性を大切にしていくこと

「視力の悪い子はできるだけ教室の前に机を持ってきて、黒板が見やすくする」、「低学年の子ども達にはやや大きめのマス目のノートを使う」、「机の大きさは子ども達の身長に合わせて調節する」等、これらのことは今までも学校教育の現場で行ってきたことです。それぞれの子ども達の学年や健康状態、特性などに合わせ、特別な配慮をしています。それぞれの子ども達が一番いい学び方（簡単に言うと安心して、わかりやすく学べる方法）を用いて、学べるようにしていくことはとても大切なことであると考えます。（中には椅子に座っている方が苦痛を感じるお子さんや、絶えず声を出していないと安心しないお子さんもいます。他者に迷惑を掛けない程度なら、それを尊重することも大切な支援の方法であると考えます。）

お子さんによって様々な特性があります。みんなと同じように学んでもいても、みんな違いがあることをお互いに認め合っていくこと、そして、その子にあった学びの方法を考え、実施していくことが大切であると感じます。その子にとって最適な学びの場で最適な学びをしていくことは、その子の将来を見据えた大切な対応であると思います。学校ではできる範囲で、配慮をしながら学びを進めていきたいと考えています。お気軽にご相談ください。

③ 失敗から学ぶ姿勢を大切にします

子ども達の学びは、「今できたことがすぐに身について、すぐにできるようになる」ものではありません。お子さんの特徴にも寄りますが、繰り返し何回もやってもか、うまくいかないところを何度も試してみるということは、必要なことであると思います。何よりも大切なのは、「失敗したからだめ」、ではなく「失敗したから良い学びになった」と大人が後押しをすることであると思います。発明王エジソンは、一つの発明をするのに何回も失敗をしたそうです。ある日、人から「何回も失敗をしていいのか」と尋ねられ「失敗する方法を何回も発見した」と言ったそうです。勿論逸話かもしれませんが、でも、うまくいかない方法を知っていることも大切な学びであると思います。たくさん経験をしていくことそのものが大切な学びにつながります。

「うまくいかなかった」、「失敗してしまった」と子ども達が思ったときには、大人は、「いいよ。次どうしたらいいのかな。」や「私にできることがあったら声を掛けてね」と伝えていくことが大切です。子ども達自身が、「次こそは」と意欲を持ち続けていかれることが何よりも大事な自己の成長のための原動力になります。

④ 私たち教師が行うこと

そもそも学びは子ども達が主体であると思います。教師が主導し、「こうしなければならぬ」、「これをやる」というのでは、本来の学びへは近づいていきません。私たち職員はそうした子ども達に学びの場を提供し、共に寄り添って考え、他者と考え合うよう促していきます。また、基礎的・基本的な知識は教え、言語理解力の定着を図るための取組を行っていきます。ですが、あくまでも学ぶのは子ども達自身です。学びを促しつつ、主体的に取り組めるよう言葉がけをし、認め、励ましていきたいと考えています。

一方で、子ども達の命に関わることや、人権に係わることについては、丁寧に指導をさせていただきます。子ども達の未発達の部分として周りの様子や状況が認識できない、相手の気持ちがわからないということが往々にしてあります。そうしたことについては、ことの大小に限らず、振り返って考える場面をつくるとともに、保護者の方を交えて一緒に解決の方法をさぐっていく場合があります。保護者の皆様にも同じ視点に立っていただき、一緒に今後どうしていくのがいいのか、ご相談させていただければと考えています。

3 本年度主な学校行事等の変更点

① 保護者懇談会・通知表について

これまで12月に行ってきた保護者懇談会(個別懇談)を9月にさせていただきます。今まで、2学期末に保護者懇談会を行ってきましたが、既に半年以上を過ぎてからの懇談では、それまでの児童への支援の方向や児童の育ちなどをお伝えし、見返しをし、更なる支援の方向を考えるのに時期が遅いと考えました。半年間の学校での支援や指導を保護者の方と一緒に振り返り、学年の後半に向けての支援・指導の方向性を見いだせると良いかと思えます。また、それに伴い通知表も懇談時期に合わせる事がよいと考え、今まで学期末にお渡ししていたものを前後期の2期制にさせていただきます。

② 日課の一部変更について

令和5年度より日課の一部を変更させていただきます。これまで、3～6年生の水曜日の下校時刻は15:15でしたが、15:05とさせていただきます。日課全体を少しずつ前倒しして10分早く下校ということになります。1単位時間の授業時間は45分で変わりありません。

③ 宿題について

毎日たくさんの宿題を出して、児童の学習の定着を図るということを行ってきましたが、学校からの宿題は最低限のもの(基礎基本の定着をねらったもの)のみを出します。先ほども書きましたが、何をどう学ぶのかはお子さん一人一人が主体となっていくものです。お子さんが自分で興味関心を持ったものを自分で考え、自分で学ぶというものにしたいと思えます。どんな学習をやったのかをお知らせいただく場合もありますが、基本的には各ご家庭で学びの支援をお願いします。(その際、どんな勉強が良さそうか、どんな学習をしてくれているのか等必要であれば、ご相談ください。)

④ 夏休み中のプール開放について

今まで、夏休み中に学校のプールをご利用いただくことができるようプール開放を行っていました。しかし、このところの夏場の猛暑を考えると、夏休み中、炎天下を児童が学校へ来ることへのリスクがとても大きいと考えています。昨年度も実際にプール開放ができたのは2日でした。本来ならば夏休み中にプールを利用させていただき、少しでも泳力をつけてもらえればと思えますが、安全・健康上のリスクを考え、本年度からプール開放を中止とします。水泳学習は2学期も行います。

⑤ 子ども主体の学びに係わって

今後、児童数の減少に伴い、学校全体の組織についても改善を図っていく必要があります。例えば、児童会の組織も、今まで通りということではできません。しかし、教師側が一方的に「こう変える」というのでは、児童の学びにはつながりません。

本年度は、現児童会(児童会の役員を中心に)の中で、次年度の児童会組織の編成を考え、全校児童で相談し合って改編していくように考えています。

また、児童のコミュニケーション力を育てていくためには、児童間同士のコミュニケーションだけでなく、児童を取り巻く様々な人(保護者の皆さん、地域の方々、場合によっては他校の人)と係わる機会を持ち、話をするような場面を仕組んでいく必要があります。地域のボランティアの方や保護者の皆様に学習の場面に登場していただくこともあるかと思えますので、ご理解いただき、ご支援をお願いします。

※ なお、これらのことについては、学校独自で考えているものです。保護者の皆さま、地域の方々等、学校に様々に係わっていただいている方のお考えも聞きながら、今後、改善を図っていきたいと考えております。お気づきの点等ありましたら、遠慮なくお知らせいただければと思います。

「学校教育目標」と「令和5年度重点目標」について

学校教育目標「かしこく やさしく たくましく」

令和5年度重点目標「岸野の良さを実感し、友や保護者、地域の方々と一緒に、心身共に豊かな生活を自ら創り出していく児童の育成 ～多様性を認め合い、自律した子どもを育てる～」

教育の指針

わか竹の伸びゆくごとく
子どもらよ
眞すぐにのぼせ
身をたましひを

子どもの実態

- ・興味や関心のあることに自分から係わって学ぼうとする意欲がある。
- ・必要以上に周りが気になり、自分から主体的に取り組むことを避ける。
- ・適切な人との関係を築く経験が少ない。

佐久市の教育のめざす姿
「生涯にわたり主体的・創造的学び、生きる力を育む人づくり、まちづくり」
めざす子ども像
「自ら考え、夢と志をもって、ともに未来を拓く子ども」

自律し、主体的に考え、行動し、学ぶ子ども達に育ててほしいという願い。
周りの誰とでも良好な関係を築き、失敗を恐れずに取組み、学びつづけていくことが、将来にわたって、その子（人）らしい生き方ができるのではないかと、そしてそうすることが社会を支える一員となっていくのではないかと。



どんな力が身につくのか
・学んだことを生かして、新たな課題を主体的に解決しようとする。
・多様な他者の考えを通して、よりよい解決の糸口を探そうとする。
・自らの考えを深めたり、広めたり、修正したりしてよりよいものを追究しようとする。
・将来にわたって自らを成長させようとする資質や能力が身につく。



具体的な取組

- ・児童がつくり出す行事や活動の創造と主体的な学びをつくり出す生活科や総合的な学習の時間の確保
- ・学級、学年を超えて係わり合う時間と人間関係づくり
- ・図書館の蔵書や ICT の利用や、現地へ出かけていっての調査学習等、体験的な学びの重視、毎日の短時間の読書

子ども達の成長をどのように支援するか

- ・児童がやってみようと思う課題を通しての学習活動の推進
- ・やわらかい結びつきを基盤とする学級づくり
- ・保護者や地域の方々との連携した社会とつながる学習
- ・ルールや規律を守ることへの適切な指導
- ・将来につながる希望や願いの醸成のための具体的な方法や筋道を考える場を持つこと